

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ありのままのあなたに寄り添います』を理念とし、一人ひとりの『思い』を大切にしながら、利用者の方々に寄り添った生活を目指している。	○	個々それぞれの生活歴を大切にしながら、今後も『その人らしい暮らし』に近づけた生活援助を目指したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ブレインストーミング法によりスタッフ皆で作った理念。スタッフ、利用者の方々の目につきやすい場所(時計の側)に貼り付けている。処遇で迷いが出た際には、理念を拠り所とし、対応を検討している。	○	理念の構築は今後もスタッフ全員で行ない、統一された方向性のもとで日々の処遇に努めていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所玄関に理念を掲示し、ボランティアや家族等の訪問者の目につくようにしている。パンフレットに理念を盛り込み配布している。地域の多くの方々に事業所を周知して欲しい、診療所待合室や文化祭行事等にはパンフレット設置している。	○	今後も継続し、新たな取り組みとして、広報に理念を掲載することにより、家族やより多くの地域の方々への浸透が図れる
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や通院時に会う近隣の方々と『こんにちは』等の挨拶や世間話を交わしたり、「気軽に来てみてください」との声掛けを行なっている。	○	特養の奥側に立地し、建物自体が見えず、気軽に立ち寄れるような場所にはなっていない。今後も普段からの地域の方々との交流を大切に、気軽につきあいができるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや文化祭等の見物に出向き、地域の方々との交流機会を図っている。	○	今後も地域の行事等の情報収集に努め、積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の高齢者住宅に一人入居されている方を招待し、一緒にお茶を飲んだりして楽しい一時を過ごして頂いた。	○	季節行事(お花見・芋の子会等)ある際には高齢者住宅に入居されている方々との交流も兼ねて、合同でも行なってみたい。広報に認知症『豆知識』のような記事も掲載し、地域への啓蒙活動も含め、情報発信の場となるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員と共同で自己評価を行い、業務を振り返る機会となっている。質の向上を図りたく、評価結果に基づき、少しでも改善できるよう取り組んでいる。前年度の改善点⇒意見箱設置、アンケートの実施等	○	今後も自己評価、外部評価により自分達の業務を振り返りながら、入居者の方々へのよりよいサービス提供に心がけていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフだけの処遇には限界があり、運営推進会議での話し合いの結果、趣味活動や外出行事等で個人ボランティアの活用ができ、入居者の方々に内容の濃いサービス提供につながった。毎月、第一水曜日はボランティアによる趣味活動を行なっている。お花見や芋の子会の時には、ボランティア3名に協力を得て入居者一人ひとりにじっくり対応できた。	○	業務上で課題となっていることを議題に挙げ、地域の方や家族の意見を聴きながら、改善の方向性を探っていききたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	手続き等の相談や助言を頂く為に、行くことがある。	○	市の行事企画等の情報収集や社会資源の情報を入れ、それらを活用し、より良いサービス提供につなげたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要性ある方には、権利擁護事業の紹介をしているが、現在利用している方はいない。	○	今後も必要性ある方々には、制度の紹介を行い対応する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習機会はまだ設けていない。スタッフ同士の情報交換により注意を払っている。自分達の言葉使いも虐待の一つにならないようにと、留意しながらの対応を行なっている。	○	高齢者虐待防止関連法の学習の機会を設け、スタッフ全員で虐待に関しての共通認識を持つようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居日の契約締結している。入居に伴う所持品の確認等、慌しい中で行なっている為、十分な説明までは至っていないと思われる。</p>	○	<p>入居と同時にではなく、契約締結日を事前に設け、じっくりと説明ができる体制を整え、利用者や家族の納得を図れるようにしたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とスタッフが1対1になる場面(入浴時や買い物時)に利用者の希望や、不満等を聴きだし、スタッフ間での情報交換を行い対応している。(利用者同士や異性との兼ね合いの不満等・外出先の希望等) 家族面会時に『何か話しておりませんでしたか?』と本人の訴え等を家族から聴きだし、対応するようにしている。</p>	○	<p>今まで以上に1対1になる機会をふやし、本人の意見を訴えやすい環境づくりに努め、居心地の良い場での生活支援を目指したい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の広報の中で、生活の様子が見えるような写真の掲載や、職員の異動等のお知らせを行っている。家族面会時にはアルバムを見て頂き、生活の様子をお知らせしている。毎月、利用料請求書と一緒に小口現金出納簿を郵送している。</p>	○	<p>従来通りに継続していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱の設置を行っている。家族アンケートの実施結果をスタッフ会議で確認しあい、サービス提供の振り返りと今後の方向性の確認を行った。</p>	○	<p>意見箱設置している件を再度、家族へお知らせする。家族アンケートの内容を検討しながら、1年に2回程度は実施し、家族の変わりうる思いにその都度順応できる体制に努めていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議において意見や悩み等を出し合い、業務に反映させている。</p>	○	<p>今後もスタッフ会議での話し合いの場を設けると同時に、スタッフ個々に意見を聴く機会を設けたい(スタッフ一人ひとりの意見が出しやすいように)</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>体調不良、精神状態不穏な利用者に対しての個別対応できるよう、スタッフで話し合い、必要な期間の勤務時間帯の延長を行っている。誕生日外出等の個別外出対応で必要時間帯のスポット勤務を行っている。</p>	○	<p>今後も、利用者状況変化に合わせ、その都度の対応に努めたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所以来1回の職員異動があった。異動されて行ったスタッフを慕っている利用者に関しては、スタッフへのハガキを書く声かけを行い、実際に2ヶ月に1通程度出している。異動して行ったスタッフもGH皆様宛にハガキを届けたりしている。</p>	○	<p>馴染みの関係を大切にしながら、職員の異動等を最小限に抑えたいが、異動があった際には、従来通り、利用者が納得されるような対応に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のスタッフ会義の中での処遇困難ケースの話し合いと介護技術等の学習の場を設けている。業務に支障ない場合の、各種研修会への参加を行っている。	○	法人内外の研修を受けれる体制にしていきたい。利用者の事例検討を担当性に行き、スタッフ自身の自主性や気づきの育成に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会への参加により分かり合える同業者との情報交換や助言を頂く場としている。	○	GH定例会への参加。他事業所との交換研修をし、多面的な角度からの視点により、より良いサービス提供につなげたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月のスタッフ会義内での悩みや不安な点の話し合いを行い、業務における不安軽減を図っている。業務外でのストレス発散の場づくりは出来ていない。研修等の参加により他事業所の方々との交流で愚痴や不満を語り合える仲間作りの機会にもしている。	○	短時間であっても、利用者と離れる休憩時間の確保に努めたい。今後も他事業所の方々との出会う機会を設け、ストレス発散の場にもしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修、学習機会がある際の勤務体制の配慮をおこなっている。研修会等の情報提供を行い、参加希望スタッフには、参加できるような体制に努めてはいるが、不十分である。スタッフ自身の力の発揮場所として、スタッフ学習会での指導者となる場面づくりをしている。各種資格試験日程に合わせての勤務調整を行なっている。	○	今後も資格取得に向けての勤務調整を図っていく。スタッフ間同士の学習場面づくりに努める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居1ヶ月間は、本人の言動と様子を記録できるケース様式を使用し、本人の要望や思いを受け止めるようにつとめている。本人が訴えしやすいような、入浴介助等の1対1になる場面での傾聴にも努めている。『心配なことはありませんか？困っていることは何かありませんか？』の声掛けにより、本人からの訴えを早期に対応できるようにしている。	○	ケース記録様式NO.1により本人の言動をそのまま記録し、本人の思いをスタッフ全員が共有できるように今後も活用していきたい。頻繁に『心配なことはありませんか？、困っていることは何かありませんか？』の声掛けにより、本人からの要望を聴きだす機会を増やす。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み段階より家族が困っていること等を傾聴している。	○	面会時に気軽に話しをして頂けるような雰囲気づくりに心がけ、家族の思いもスタッフ全員で共有できるようにする。家族からの情報や家族の思いもケース記録に記入する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護困難で申し込みに乗られた家族が、介護サービスを全く利用したことがないということを知り、在宅介護支援センターへ紹介し、居宅支援事業所の申し込み手続きや介護支援専門員と相談できるような体制につなげた。ショート利用や高齢者住宅の活用等により心身の介護負担軽減されることも紹介している。	○	今後も各関係機関との連携により、本人、家族の困りごとへの支援に心がけたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人の施設見学をお願いしており、本人が納得した上での利用につなげる事と、他の入居者の方々との相性等も確認させて頂いている。	○	今後も入居前の事前見学や、お茶飲み気軽に立ち寄って頂けるよう声かけを行う。空き部屋ができた際にはショート利用を紹介したりし、徐々にグループホームの生活に慣れて頂けるような取り組みをしていきたい。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	祭り、花火、ドライブ等で『きれいだねー』とその時々感動を共に味わっている。季節行事の調理(お供え、みず木だんご、沢庵漬、すいとん・・・)を教える場面づくり心掛けており、一緒に楽しみながらの生活を送っている。	○	従来通り、季節を感じられるような取り組みを積極的に行い、入居者の皆さんと多くの感動作りに励みたい。入居者一人ひとりの【昔の杵柄】の発揮する場面づくりにより、スタッフ自身も教えて頂きながら成長していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはアルバムを用意し、生活の様子が家族にもわかりやすいようにしている。入居者本人と家族と一緒にアルバムを観ながら『いいわねー・・・』会話する場面もみられている。本人からの要望や体調不良の際には、その都度連絡し、家族の協力を得ながらの対応を行っている。地域の祭り見物の際に、家族へも誘いの連絡を行ったが、1名の家族のみ本人と家族のバリエーションとして毎月の広報で、生活の様子がわかりやすい写真等で掲載している。電話の子機使用で家族と本人が居室にて気兼ねなく会話できるようにしており、書ける方には手紙やハガキを書く機会も設けている。本人、家族が疎遠にならないように心がけてはいるが、不十分と思われる。	○	従来通りの他に、行事の際には家族の参加呼びかけを行い、利用者と家族と一緒に喜びの一時を過ごせるような取り組みを行いたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のバリエーションとして毎月の広報で、生活の様子がわかりやすい写真等で掲載している。電話の子機使用で家族と本人が居室にて気兼ねなく会話できるようにしており、書ける方には手紙やハガキを書く機会も設けている。本人、家族が疎遠にならないように心がけてはいるが、不十分と思われる。	○	従来通りの他に、本人と家族それぞれの思いを傾聴する機会を増やし、理解に努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、本人が孤立しないよう知人や親戚の方々の面会を依頼している。ミニドライブにて、それぞれの自宅周辺や知っている店での買い物へ出かけたりしている。誕生日の個別外出では、本人の行きつけだった店や馴染みの場所への外出対応に取り組んでいる。	○	今後も馴染みの場所への外出等の取り組みを継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々のできる方に合わせた、役割分担によりお互いに支え合う生活をして頂いている。(洗濯干し、畳方、調理、食卓拭き、食器洗い、..) 相性の良い人との仲間作りの支援として、一緒に作業をして頂いたりしている。トイレ前ベンチやコタツで、仲間同士が語り合っている時にはスタッフは入らないようにし距離をおいての見守りを行っている。	○	今後も、利用者同士の関係にスタッフが入り込まないように留意しながら支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ移られた利用者への面会に出向いたり(頻度は少ない)家族には個人ボランティアとしての関わりを継続して頂いている。	○	今後も継続していきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自の調査表やセンター方式の情報シートの活用により、一人ひとりの生活歴を把握した上での会話の中から希望等を汲み取るようにしている。一人のスタッフが得た情報も全スタッフが共有できるようスタッフ会議で話し合い、できる範囲での個々の希望に添った対応に努めている。	○	今後もセンター方式の情報シートを活用し、利用者個々の暮らし方を把握した上での対応に心がけたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査表、センター方式情報シート、居宅ケアマネージャーからの情報書類にスタッフ全員が目を通し、利用者一人ひとりの生活歴や経過を把握するように努めている。	○	今後も、一人ひとりの生活歴を大切にしながらの対応をする為にも調査表やセンター方式の情報シートの活用を行っていききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のケース記録、健康チェック表、排泄チェック表等の記録により、経過と現状を全スタッフが把握できるようにしている。できる力の新たな発見した場合にも記録し、全スタッフが共有できるように努めている。【気づきファイル】を設けている。	○	今後も各種記録の定着により、利用者一人ひとりの経過と現状を把握し、『いつもとは違うな?』という気づきで早期対応できるよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望も含め、スタッフ会議において利用者一人ひとりの不安要素や処遇に関する話し合いを行い、それに対応できるような介護計画に努めている。健康面では主治医の意見も計画書に反映させるようにしている。	○	生活に則した内容での計画書様式を検討中である。より具体的な目標や援助内容の記述により、家族、スタッフとも共通認識が図れる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化の際には新たな計画書を作成するようにしているが、不十分である。スタッフ会議において、利用者その時々々の現状についての話し合いを行い、対応を検討し処遇としては行っているが、計画書作成までは至っておらず。	○	スタッフ会議での話し合いにより、援助内容や方法についての統一化は図られているが、家族に現状を理解して頂く為にも、その都度の計画書作成につながるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りの業務日誌により利用者個々の様子の情報を共有している。業務日誌にスタッフ確認印欄を設け、不規則勤務であるスタッフ全員が毎日の業務日誌に目を通し、利用者の経過を把握できるようにしている。気づきファイルを設け、全スタッフがより多くの情報を共有するように努めているが、不十分である。	○	利用者の情報の共有の為に日々の様子や気づきの記録を徹底し、スタッフ全員が統一されたケアの提供をできるように今後も継続していきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用されていた方には、本人が希望する場合入居後も週1回程度でのデイサービス利用を継続して頂き、在宅生活での関係性を絶たないよう配慮している。(同一法人のデイサービスのみ) 遠方の家族が面会に来所する場合、希望があれば利用者と一緒に泊まって頂き、食事と共に生活の様子を肌で感じて頂けるようにしている。	○	今後も同様な取り組みは継続していきたい。グループホームでのショートやデイサービス利用も受け入れられるような体制にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社協の事業の一つである《思い出パートナー》、読み聞かせ・趣味活動ボランティアの定期的な訪問により利用者の方々となじみの関係が築き上げられている。幼稚園や小学校での運動会や学習発表会等の行事の際にはできる範囲で見学に出向くようにしているが、見学に行けない時には園児が来所し交流して頂いた。	○	今後も地域資源の活用を継続して行く。地域への啓蒙活動を図りながら、今後も各関係機関や地域の方々の理解と協力を得られるような働きかけに努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅でデイサービス利用をされていた方には、本人希望があれば週1回程度のデイサービスを継続利用して頂いている。独居で帰宅願望あった方には居宅のケアマネジャーを通じて、地域のサービス事業者を取り入れた定期的な帰宅を行っていた。自宅付近にグループホームができた際に、家族への紹介と転居先の事業所との情報交換を行い、本人のスムーズなサービス利用を支援した。	○	今後も本人、家族の要望があった際には、内容を検討し、できる範囲で意向に添った支援を行なっていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行なってはいない	○	地域包括支援センターとの交流は図られている為、必要性があった場合には、協働での支援に取り組みたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院はスタッフが行っており、体調変化時も主治医と連絡をとり速やかに対応できている。主治医が個々の生活の様子を把握できるように、必要時には書面にて情報提供をし、現状に添った医療的な支援を頂いている。	○	今後もかかりつけ医への通院対応はスタッフがいき、その都度生活の様子や体調を報告し、適切な指示を仰ぎ医療的支援に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も同様の対応に心がけ、必要時には利用者や家族の精神的負担を和らげられるよう速やかに且つ、適切な治療を受けられるよう支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後もスタッフで迷いがある際には、気軽に相談を行い適切な対応をしていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後も同様の対応に心がけていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>特養を母体とする特性を活かし、看取り段階になった場合には、適切な環境のもとでのサービスをうけられるように関係機関との連携により支援していきたい。体制上や、環境の整備ができ、尚且つ本人、家族の希望がある場合には、看取りまでの支援を検討して行いたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後も主治医と密な連携をとり、スタッフ全員の共通認識が図れるようスタッフ会議の場を活用し、個々の利用者に関わったチームケアの取り組みに努めたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>利用者の環境変化によるダメージを軽減する為にも、今後も同様の対応に心がけていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である利用者に対する処遇に関しては、スタッフ会議での学習機会を設けたり、情報誌の活用にて自尊心を損ねないような対応に心がけている。個人情報に関しては全スタッフの誓約書において、徹底に努めている。	○ 自尊心を損ねないような対応に心がけてはいるが、スタッフと利用者間での慣れあいもあり、言葉掛けに不適切なところもあると思う。馴染みの関係を築いても、慣れあいにはならないよう留意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人とスタッフが1対1となる入浴時や外出時を貴重な時間と捉え、本人の思いを表出しやすいように話しかけ傾聴するようにしている。意思疎通困難な状況になってきている利用者に対しては、短かく簡単な言葉での問いかけをしたり、○と△のどちらかというような安易な選択肢を提示するようにし、本人の自己決定につなげている。	○ 今後も同様の取り組みにて、利用者の思いに添った支援を心がけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『床屋に行きたい』『天気がいいからどこかへ行きたい』『まだ寝ていたい』という声がある際には、できる範囲での対応に努めている。長年の生活習慣で寝たり起きたりの生活してきた方や昼夜逆転している方に、他者と同一の生活リズムは強制せず、個々のその日の体調に合わせた生活援助を行なっている。入浴に関しては不十分である。	○ 入浴に関しては、就寝前に入りたいと思っている方が居るが、事業所の都合で夕食前に入浴して頂いている現状である。以前は夕食前後に分けての全員入浴を実施していたが、利用者の心身状態の低下に伴い、リスクが大きくなり現在の時間帯に変更している。予測される危険性を家族と話し合いした上での、就寝前入浴を再開してみるかどうか
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の行きつけの美容院や馴染みの理容店への対応を行なっている。	○ 今後も馴染みの店へ行けるよう支援していきたい。特に希望が無い方に関しても、家族からの情報を得たり、馴染みの関係が構築できるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事食を積極的に取り入れ、季節感を味わって頂くようにしている。すいとんやだんご、餅料理の際には、利用者の生き活きた場面が見られスタッフも教えて頂き学習の場にもなっている。ホットプレートでの焼肉やおやつ作り、クリスマスケーキ作りは利用者同士の共同作業となっている。調理好きの方には毎食のように手伝って頂いている。	○ 利用者個々の好みや、【できる力】の見極めに努め、今後も同様に支援していきたい。共同作業できるメニューをより多く取り組み、より楽しい食事へとつなげたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好の把握に努め、対応している。コーヒー好きの利用者は、他利用者が買い物に出掛ける際に、缶コーヒーの買い物を個人的に依頼し、買い物に出掛けた利用者の帰りを待ちわびる姿が見られる。	○ 現在の入居者の中では、タバコを吸う方は居ないが、もしタバコを吸う方が居た場合、火の元の点から、吸う場所や時間帯を日常的に楽しめるような支援ができるかどうか検討しておきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により、時間を見計らったトイレ誘導を行いトイレでの排泄につなげている。オムツ使用だった方が綿パンツに切り替えられたり、オムツを汚す頻度が少なくなった。失敗により自信喪失になる利用者もあり、失敗の予防に努め、対応している。	○	今後も同様に継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日置きで夕食前の入浴を行なっている為、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴はできていない。以前は夕食前後に毎日全員の入浴を行っていたが、利用者の状態低下に伴い、現在の状況に至っている。	○	就寝前の入浴希望の方がいる為、以前のような就寝前入浴の検討をしているが、人的問題と感染症の方の入浴順番の兼ね合いがあり、改善につなげられるか難しい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣を把握した上でコタツで横になって頂いたり、居室で静かに休んでいたいという時には無理強いせずに見守りしている。夜眠れない時には、心配ごとを傾聴したり、温かい飲み物を提供したりし安心してできるように努めている。	○	今後も、利用者個々の、その都度の不安要素の解消に努め、安心して過ごせるように努めたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の情報シートの活用により、一人ひとりの生活歴を把握し、好きなことや、できる力の発揮場面作りに心がけている。(趣味活動や習字教室の取組み)外出や外食をすることにより、狭い空間で、いつも同じ顔ぶれでの生活にメリハリをつけている。(皆さん外出は喜ばれる)	○	今後も継続的な取り組みを行い個々の力の発揮場面作りを行い、喜びのある生活支援に努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物時に、自分で欲しい飴や雑誌を自身の所持金で買う機会を設けている。	○	今までは限られた利用者への対応だった為、他の利用者自身もお金を所持しての買い物をする機会を設け、新たな【できる力】の発見に期待したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花壇や畑を設けてあり、四季を通じての散歩コースとなっている。散歩したいという利用者には、できる範囲で『どうぞ行ってらっしゃい』との声掛けをし、距離を置いての見守りを行ったり、その日の心身状態に応じ片手引き歩行介助にてスタッフも一緒に付き添う。春には、周辺の桜のお花見に毎日のようにミニドライブしている。	○	今後も自然に恵まれた広い敷地内を活用し、戸外でのお茶飲みや散歩、ミニドライブを日常的に取り入れて楽しみのある生活を支援していきたい。徒歩で床屋へ出かけた後、小人数での買い物への外出も増やし、より充実した外出支援につなげたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日に個別外出対応にて、本人の馴染みの場所や、行きつけの寿司屋での外食等を行なっている。その日一日は、本人とスタッフ1対1でじっくりと対話をし、喜びを共にしている。	○	家族同伴でのドライブ等により、本人と家族が楽しいひと時を共に過ごせることができるような企画を取り組みたい。(介護スタッフが一緒に居ることにより、本人、家族とも安心して外出でき楽しむことができると思われる為)

(事業者名 グループホームはごろも)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機の電話使用により、居室で家族と電話したり、家族への手紙やハガキを出す支援を行なっている。家族や知人にも電話や手紙等を利用者宛に出して欲しいということ、依頼している。	○	今後も同様の支援を継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人が、気軽に過ごせるように、居室に椅子を用意している。生活の様子を知って頂けるように、その都度アルバムを提示し観て頂くように心がけている。遠方の家族が来所の際には、居室と一緒に泊まれるように対応している。	○	今後も沢山の方々が無難に訪問できるように努めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めているが、具体的な行為の把握は不十分である。	○	身体拘束の対象となる具体的な行為の学習機会を設け、スタッフの共通認識を図り、今後も身体拘束をしないケアでの生活支援に努めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関とも鍵はかけていない。徘徊の心配のある場合には、玄関のセンサーを起動させチャイムにて気づき、対応できるようにしている。	○	今後も日中は鍵をかけない生活の支援に努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士の声の掛け合いにより、利用者の所在確認を行なっている。一人で散歩したいという時には、スタッフは距離をおき安全確認を行なっている。	○	いつも監視されているという感覚を与えないように、さりげない見守りや介助に心がけ、本人の安全な生活援助に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自殺念慮の方や異食行為ある方のみ、様子を見ながら危険性のある物品を撤収している。(紐、ハサミ、石鹼、ちり紙等) その都度、家族にも了解を得ている。	○	鬱傾向や異食行為される方に関して、様子を見ながらその都度の対応を行い、家族へも了解を得る。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ会議において利用者の現状を話し合い、予測される事故等の予防策を検討している。転倒事故等が起きた場合には、報告書に基づき対策を検討し、繰り返しの事故防止に努めている。	○	今後も利用者一人ひとりの状態変化に早期対応をし、スタッフ全員での話し合いを行いながら、予測される事故等を検討し防止策につとめていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフ会議での学習機会を設けているが不十分である。	○	利用者の重度化もあり、学習だけではなく、応急手当や初期対応の訓練の実施を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域防災協力隊の協力を得ながらの防災訓練を行っている。(昼、夜の場合を想定して行なった)グループホームでの認知症の方々をより安全に避難誘導する方法を消防士の方と相談しながら、練習を行なった。	○	今後も消防や地域の方々との防災訓練を行うと共に、グループホーム独自でも、利用者、スタッフとも避難することに慣れるように避難訓練を頻回に行なっていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の思い通りの生活支援を行なうと同時に、事故発生の危険性が予測される場合には、その都度家族と話し合い、事故発生時の対応(どこの病院へ紹介してもらうか等)を確認し合っている。	○	必要に応じて、家族との話し合いの場を設け、本人の生活の場が狭まらないように支援していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を把握し、『いつもと違うな』という気づきに心がけ、早期対応を行なっている。体調変化時は、いつ頃から、どのような状態かを主治医、家族に報告できるよう経過観察及び記録を行い、スタッフの情報の共有に努めている。	○	今後も同様の対応に心がける。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬処方箋をケースファイルに綴り、スタッフ全員が内容確認できるようにしている。決められた処方での薬を確実に内服できるように支援しており、状態変化時には速やかに主治医に相談し対応している。利用者の服薬変更ある際には業務日誌への記録により全スタッフが共通理解できるようにしている。	○	薬の効用と副作用を把握し利用者の症状変化の際には、主治医に相談、報告できるようにし、適切な服薬調整の支援に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による心身状態の影響が大きいことをスタッフ間で共通理解しており、毎日の排泄チェックにより排便コントロールを行っている。水分量の確保と腸の動きを助ける飲食物を提供できるようにしている。ヨーグルト菌の活用で常にヨーグルトを生産しており、気軽に用意できるようにしている。散歩等の声掛けにより身体を動かすことも促している。	○	今後も排泄チェック表の活用により、便秘予防に留意した取り組みを行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	嚥下性肺炎の予防の為に、口腔内の清潔保持の重要性を全スタッフが認識しており、毎食後の歯磨きの声掛けと要介助者には、毎食後の口腔ケアを行っている。舌苔の状態にも留意し、舌ブラシやモンダミンの活用により口腔保清に努めている。	○	今後も口腔内の清潔保持に努めながら、内科的疾患予防にもつなげていきたい。

(事業者名 グループホームはごろも)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の心身状態に合わせての食事量を提供している。献立は1週間単位でスタッフが交代で作成し、それを隣設している特養の栄養士にも回覧し助言、指導を頂くようにしている。水分摂取チェック表により1日の水分摂取量を把握し、日中不足気味の方には夜間の水分補給を促すようにしている。	○	今後も栄養士の協力を得ながら、利用者に合った内容の食事提供に心がけたい。利用者の重度化、病名により制限食等の必要性が出てきた際にも、速やかに対応できるようにし、適切な食事の提供ができるようにしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにより全スタッフの周知徹底を図り、感染症予防に努めている。隣設している特養の医務との連携により、感染症対応の取り決めや予防の助言を頂きながら、消毒薬の情報も得、適切な対応に努めている。	○	マニュアル作成、見直しの繰り返しにより、より適切な感染症予防を継続的に取り組んでいく。今後も隣設している特養の医務との連携により、その都度の感染症予防に取り組んでいく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等の毎晩の消毒と台所の衛生管理に努め食中毒予防に留意している。台所に湿度計も掲示し、湿度の高い時期の調理や食材の管理に気をつけている。食材は店からの買出しと毎週配達になる生協の活用により、新鮮で安全な物の使用に努めている。	○	今後も食材の買い置き等をしないように留意し、新鮮で安全な食事の提供につなげられるように努めたい。食中毒予防のマニュアルの周知徹底を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や庭の花壇には季節の花々を楽しめるようにしており、玄関先にはベンチを用意し、好天気の際には利用者同士でお茶飲みしたり、唄を歌ったりする場にもなっている。散歩から帰って来た際や、外出時にちょっと待つ時間がある際にはベンチに腰掛け過ごしている。福祉用具使用の方でも出入りできるようにスロープを取り付けている。	○	【玄関は、その家の顔】という意識を持ち、今後も利用者や訪問者が心地良く出入りできる環境作りに配慮したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みやコタツが目につくことにより生活感を味わえるように配慮している。季節感ある装飾や置物、音楽に工夫を行っている。(雛人形、鯉幟、七夕、門松等) 屋内は床暖房により一定の空調管理を行い、昼夜とも過ごしやすいうようにしている。	○	生活の場であることを基本とし、居心地の良い空間づくりに今後も努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時には自由に自分の居室に出入りできている。仲間同士でコタツに横になり話しをしていたり、トイレ前ベンチに腰掛けて語らいをしている時がある。その際には、スタッフは近寄らないように配慮している。	○	気の合った仲間同士での買い物に誘ってみる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の馴染みの物を持参されるよう依頼している。裁縫の得意だった利用者が自分で縫った丹前を持参され、それを使用して寝ている。使い慣れた裁縫道具や、位牌等を持参され居室に置いている利用者がいる。家族への思いが強い方には、家族の写真を居室に飾り安らぎの場としている。	○	少しでも見覚えのある小物等を利用者の側に置くことにより安心して暮らせると思われる為、今後も馴染みのものを持参して頂くよう家族に説明をする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除やリネン交換時には換気を行いながら作業するように努めている。体温調整が上手くできない利用者は外気温による影響が大きいため、室温に留意している。利用者排便後のトイレ窓を開け、ファブリーズ使用で消臭に配慮し、次にトイレを使用する方に不快な思いをさせないようにしている。屋内は床暖房となっており、室温20～22℃に保つようになっている。	○	冬季の換気が少ない為、毎日1回の換気定着を実施していきたい。今後も外気温と体温の関係性に留意しながら、心地良い空調に配慮していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器使用で自力で自由に移動できるような環境になっている。トイレの場所が認知しやすいように目立つような表示と個々の視線に合わせた位置に貼り付けをする工夫をしている。居室入り口も皆同様の造りで間違いやすい為、入り口に表札を作成したり、目印になるものを飾り、間違いが少なくなるよう配慮している。	○	今後も一人ひとりの現状に合わせた安全な環境づくりに心がけ、手助けを受ける事に引け目を感じる利用者には、できる範囲で自立した生活を送れるように留意していきたい。それに伴い生活意欲や身体機能の低下予防にもつながていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	『今日は何日?』と毎日問われる利用者には、日めくりカレンダーを破くことを日課とし、今日の日を認知しやすいようにしている。個々のできる力を見出し、発揮する場面づくりを行うと同時に、失敗による自信喪失で混乱に陥ることを予防する為、できない事や戸惑いがある際には、さりげない介助に留意し、本人の精神的な安定が図れるように努めている。	○	ほとんどの利用者は読む力に長けている為、視覚から認識しやすいような表示等の工夫を凝らして行く。個々のできる事、できないことを見極め、【さりげない介助】に配慮しながら、本人の自信を助長しながら暮らしやすい環境づくりに今後もつとめていく。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	好天気の時には外に置いているベンチに腰掛け唄を歌ったり、お茶を飲んだりして過ごすことがある。春にはお花見と称して、庭の桜の木の下で頻繁にお茶のみを行っている。花壇から畑まで敷地内一周が丁度良い散歩コースとなっている。ウッドデッキは洗濯干しの場にもなっているが、お茶会や焼肉パーティーの場としても活用している。	○	その時々季節を目と肌でも味わえるように、自然に恵まれた環境を十分に活用しながら、戸外での楽しみの場を多く設けていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①内科医・歯科医との連携が図られている⇒隣設している特養と内科、歯科診療所が廊下でつながっており、冬期の通院や体調変化時に対応しやすい環境になっている。歯が合わず刻み食の状態に入居された利用者が、気軽に歯科通院できるようになり、普通食を摂取できるようになった。それに伴い栄養状態も良くなり、身体的な面でも安定した健康状態の維持につながっている。

②自然に恵まれた静かな生活環境⇒建物周辺には桜の木や花壇、畑を設けてあり、普段の散歩コースで季節感を味わえる環境になっている。去年は地域の方に頂いた柿や大根で、利用者の方々が干し柿・たくあん漬物作りに励み、生き生きとした表情が見うけられた。

③隣設の特養との協力体制⇒特養への慰問や行事がある際には一緒に参加している。特養の栄養士や看護師の助言、指導も得ながら、より良いサービス提供に心がけている。④地域のボランティアの協力⇒回想法、読み聞かせ、趣味活動をボランティアの協力を得て定期的に取り組んでいる。